

北海之光

12月号 北海道教区報

主にあってはあなたがたの
労苦がむだになることはない
コリントI 15章58節

発行所 北海の光社
001-0015 札幌市北区北15条西5丁目1-12

日本聖公会北海道教区事務所

電話 011-717-8181

FAX 011-736-8377

E-mail:hikari@nssk-hokkaido.jp

http://www.nssk-hokkaido.jp

発行人 植松 誠

神の国の住人たち

紋別聖マリヤ教会牧師

司祭 アルバン 阿部 芳克

「二週間は長いのに、一年は短い」と言った人がいます。でも牧師と幼稚園長を兼務していますと「一週間は短いけど、一年はもつと短い」というのが実感です。早いもので、今年もクリスマスがやって来ました。イエス様が地上にお出でになった理由を考えますと、私たちが神の国に招いて下さるためではないだろうかと思えます。そうだとしますと、神の国ってどんな所なんだろうかと思いが巡ります。イエス様と並んで十字架につけられた罪人の一人が「あなたが御国にお出でになる時には私を思い出して下さい。」とお願いすると、イエス様は「あなたは今日、私と一緒に楽園にいる。」と言って下さいました。このことから「神の国」とは死んでから行くところなのかなと思った

りもしますが、果たしてそうでしょうか。イエス様はこうもおっしゃいました。「神の国は、ここにある、あそこにあると言えぬものでもない。実に、神の国はあなたがたの間にあるのだ。」イエス様のお言葉には、ちよつとドキツとします。何故なら、既に見ているのに気が付かないでいるかも知れないからです。実は、私には思い当たる節があります。それは、しゅんちゃんとおーちゃんのことです。二人は幼稚園の同級生です。卒園式の日、しゅんちゃんは私に「一緒に写真とって」と言いました。写真を撮りながら、しゅんちゃんはこう言いました。「園長先生、おれ、あーちゃんが切符を買おうとしたら、走って行って買ってあげるんだ。」その言葉を聞いて私は、とつても驚きまし

た。あーちゃんは重いASD児で生活のあらゆる面で助けが必要でした。あーちゃんも三年間、生活を一緒にしてきましゅんちゃんが、こんなことを考えていたのかと思うと胸が熱くなりました。今にして思えば、この時、しゅんちゃんとおーちゃんを通して神の国を見ていたのかも知れません。

一二月初めの土曜日、幼稚園の先生たちの会議がありました。いつもは会議が終わるとすぐに居なくなるのにこの日は違っていました。どうしたんだろうと思つて様子を見ると、今年初めて担任を持つた先生のクリスマス発表会の準備を一緒にやっていました。

そこに、先生たちの輪が広がっているのを見ました。その時、隣にいた家内が「いいよ」と言いました。何がいいのかと言いますと、このような場面では、私が先生たちのために、弁当やおやつの手配をすることにしていたので、そうしても「いいよ」ということです。それで、お昼だけ

ら、二千元もあれば大丈夫かなと思つて、財布からお金を出して渡そうとしたら、その時既に「ガンガン貯金」からお金を出して、先生に渡している人がいるじゃありませんか！紋別幼稚園には、先生たちや、子どものために自由に使える「ガンガン預金」というものがあるんです。わたしは財布から出した二千元を手にとってウロウロ。でも、とつても嬉しかった！なぜなら、先生たちの思い合いの輪がここにも広がっていたからです。イエス様はこうもおっしゃいました。「はつきり言つておく。わたしの兄弟であるこの最も小さい者の一人にしたのは、わたしにしてくれたことなのである。」この時、イエス様は、「あなたは、既に神の国を見ている。」と言われたのに違いないと思えます。



日本聖公会北海道教区第七八(定期)

教区会主教告辞



主教 ナタナエル

植 松 誠

「教区会開催にあたって」

北海道教区第七八(定期) 教区会開催にあたり、北海道教区の各教会からお集まりくださいました聖職議員、信徒代議員、教区役員、招待議員、またこの教区会のためにご奉仕くださいます書記局、食事のお世話にあたってくださる婦人会の方々、教区事務所職員の皆様に深く感謝いたします。広い北海道教区で、普段会う機会の少ない私たちが、この教区会で、自分たちの教会だけでなく、北海道教区にはこのように同じ聖公会に属する兄弟姉妹がいるということを変更して覚えさせられ、励ましと勇気が与えられます。今日と明日の会期中、父と子と聖霊なる神様の豊かなお導きとみ守りがありますようお祈りいたします。

「人事」

人事について申し上げます。前教区会の聖餐式の中で、阿部恵子、上平更両聖職候補生が執事に按手され、現在は阿部執事が帯広聖公会で、また上平執事が新札幌聖ニコラス教会及び札幌キリスト教会で牧師補として派遣されています。現在、聖公会神学院で二年生として学んでいる三浦千晴さんは、四月に聖職候補生に認可されました。定年退職された後も、長く嘱託司祭として、複数の教会を掛け持ちでお働きくださっている甲斐博邦司祭、藤井八郎司祭、内海信武司祭に深く感謝いたします。また、退職司祭の寺本睦夫司祭、大友正幸司祭、横山明光司祭にも、主日礼拝の奉仕などをいただいています。現役の教役者が少ない現状で、これら退職司祭のご奉

仕にどれだけ教区が助けられていることかを改めて覚え、今教区会の場で、これらの退職司祭の皆様へ深い感謝を申し上げます。

ヨハネ細矢勝司執事は、定年後も札幌キリスト教会で礼拝のご奉仕をくださいました。二月九日、天の御国に召されました。そのお働きを覚え、主の平安をお祈りいたします。

阿部芳克司祭は来年三月末で定年を迎えになります。長きに渡って教会で、また幼稚園の園長・チャプレンとしてお働きくださいましたこと感謝いたします。

今日現在で、現役教役者の数は、主教一名、司祭一〇名、執事二名、聖職候補生一名、計一四名となっています。神学校で勉学中の聖職候補生を除き、現役二三名と嘱託司祭三名、そして協力いただいている退職聖職教名が、北海道教区の二三教会と関連施設一〇か所での宣教・牧会にあたりつつあります。現在、ほぼすべての現役司祭と執事が、二か所から三か所、あるいはそれ以上の教会の牧師、管理牧師、牧師補、施設の園長・チャプレンなどを兼務していま

す。少ない教役者で広大な教区を牧会・宣教するのは年々困難になってきています。また、教役者たちの過重な責務が、教役者の心身に大きな負担を与えていること、病气や疲れで休養を要する教役者が出ていることにも憂慮しています。現役教役者の減少はこれからも続き、それによって一人の教役者の負担はさらに大きくなることも予想できません。教役者の負担を軽減する決定的な方策は現時点ではありませんが、少なくとも、教役者たちが心身共に休むことができるようなご配慮を、各教会でお考えいただけますよう、主教としてお願いいたします。

教区会の度をお願いしていることですが、今後新たに神学生や聖職への献身者が興ざれますように、皆様の篤い祈りをお願いするとともに、そのような人を探し、育て、聖職になるようにお勧めいただくことはこの教区の一人ひとりの急務です。また、必ずしも聖職への道を歩み出さなくても、信徒として、信徒奉事者として教会の宣教・牧会・礼拝にご奉仕くださる方が与えられるようにと願います。

聖公会神学院ではそのような方のための実質八ヶ月のコースも新たに設けられています。どうぞ、一人でも多くの方が、このような神様からの招きに応じられますように祈ります。

北海道教区の人事ではありませんが、札幌キリスト教会出身の工藤マナさんが、念願であった英国ウォンテージのおとめ聖マリア修道院での修道生活に入られたことを共に喜びたいと思います。また、札幌聖ミカエル教会信徒の雨宮春子さんが、日本キリスト教海外医療協力会(JOCS)の派遣ワーカーとして、タンザニアのタボラで助産師として働いています。春子さんの働きを支援しながら、私たちも多くのことを学び、恵みを感じたいことを感じます。北海道教区も雨宮春子さんと共に歩みたいと願っています。

「宣教」

二〇二二年、日本聖公会宣教協議会が開かれ、全教区から約一五〇人が集って、日本聖公会の宣教ビジョンについて熱心な討議が行われました。その背景には、宣教一五〇数年を経た日本聖公会

が、信徒の減少と高齢化、聖職者の不足、教会建物の老朽化、財政の逼迫など多くの課題に直面しているという現状がありました。そしてそれは北海道教区も同じでした。宣教協議会の結果は、「日本聖公会〈宣教・牧会の十年〉提言」として発表され、それを受けて、北海道教区でも宣教活動推進部内の宣教ミーティング部門が中心になっていろいろな試みが行われてきました。各教会で、自分たちの教会の宣教の夢やビジョンが語られ、その実現に向かって少しずつでも何か取り組んでみたり、教区的に講壇交換が「出会いと交わりの日」としてここ三年にわたって行われたり、また、クラスター(群れ)ミーティングという、教会の規模や状況など、似通った教会同士の集まりなども始められています。また、以前から行われてきた教区修養会や礼拝研修会もいろいろなテーマで開かれており、さらに、分

区や地区別に合同礼拝も各地で行われていて、それぞれ豊かな恵みが与えられています。

二〇一二年日本聖公会宣教協議会では、将来的なビジョ

ンについて、何か大きな目標を立てたり、新たなことを始めるよりも、これまでの宣教・牧会の取り組みを大切に

して、それらを忠実に、忍耐強く、そして丁寧に行っていくことを確認しました。このことはとても重要だと私は思っています。先に述べました私たちの教会の宣教の夢やビジョンも、それらが単なる

夢物語になってしまわないように、常に基本に立ち返ることが求められています。私たちの基本、それは自分自身と教会共同体の信仰です。私たちがどのような信仰生活を

送っているかが最も問われます。み言葉を読み、み言葉によつて養われ、祈りをし、主日礼拝を大事にし、自分を神と教会と人々に捧げる生活が

できているかということは宣教と直結しています。それ無しには宣教は考えられません。日々の信仰の営みを丁寧

に繰り返すとは、私たちが、そのような信仰生活を送ることが

できるように、教会として、グループとして、個人として

いろいろな工夫をし、励まし合ったり支え合ったりすることではないでしょうか。そして、その結果として、私た

ちの信仰は強められ、深められて、大胆に、動的に、革新的に宣教に向かうことになる

と思うのです。

基本に帰るといふこと、私は主教に就任して以来、ずっとこのことを言い続けてきたように思います。時には「主

教として、一〇年、二〇年、五〇年の大計を立てるよう

に」と言われたこともありま

す。しかし、私にとつて何よりも重要なことは信仰の基本

を大事にすることでした。今を、この時点を自分がどのよ

うに生きているのか、そのことを聖職も信徒も意識的に自

問していただきたいと思いま

す。その答えによつては、私たちが今の自分、教会共同体

を変えていくことを求められます。北海道教区宣教一五〇

周年を五年後に迎えます。今

教区会においては、そのための実行委員会の設置が議案と

なつて出されていますが、先

の目標を立てるに際して、今の私たちの信仰生活・教会生

活の現実を先ず検証し、そこから

はとばしり出る感謝や喜び、情熱や使命感に立脚した

目標を目指すことを大事に

しなくてはならないと思いま

す。

今までも教区・教会の宣教

への取り組みが欠かさずに行

われ、それに多くの方々が参

加してきてくださいました。

すべてが上手くいった訳では

ありませんし、反省点も毎回

ありました。それでよかったです

と思います。肝心なことは、

教会や教区の宣教の取り組み

を傍観者のように批判や非難

をしないで、それらの取り組

みの中で自分自身を歯車の一

つに組み込んでいただくこと

だと思えます。そのような中

から出てくる非難や反省はと

ても重要です。

先に申し上げました教区教

役者の減少と不足は、北海道

教区の宣教の現状を考える

ときに、何よりも大きな問

題であると私は思っています。

これからも毎年のように、定年を迎える教役者が出

ます。限られた数の教役者で、

二〇一二年日本聖公会宣教協

議会で出された提言にある、

「丁寧な宣教・牧会」を行う

ことは困難です。しかし、教

区どの教会でも「丁寧な宣

教・牧会」は切実に求められ

ています。どうしたらいいの

でしょう。一つは聖職への献

身者を、皆が、真剣に求めて

祈り行動することです。そし

て二つ目に、足りない教役者

を助け支える信徒たちの活用

と訓練だと思えます。北海道

教区の宣教は、常に聖職・信

徒が、教区・教会が何をして

くれるかを期待するのではな

くて、自分には何ができるか

を考え、自分の小さな力や資

産を捧げてくださり、それを

主が用いて祝福してくださっ

たことによつて成し遂げられ

てきたと言えます。一人ひと

りが教区を担い、教区のため

に、出来る限りの献身をして

くださること、そこに主の聖

霊の豊かな働きかけがされま

すよう祈りいたします。

宣教の観点から、もう一

件、申し上げます。二〇一

一年三月一日に発生した東日

本大震災によつて起こされた

東京電力福島第一原発事故に

より、現在も多くの方々が苦

しんでいます。日本聖公会は

二〇一二年の総会で、「原発

のない世界を求めて」という

決議文を採択し、また今年五

月には、仙台で「原発のない

世界を求める国際協議会」を

開催しました。そしてそれに

続いて、北海道教区でもミラ

ンダ・シュラーズ博士をお招

きし、広くこの問題に関心のある

教団、教会、市民団体な

どと協働して集会を開きました。原発、核エネルギー、使用済み核燃料の処理など、これらは神様の創造されたいのちと環境を脅かす重大な問題であると私は認識しています。北海道という地は、今、これらの問題に直面しています。その地に遣わされている北海道教会も、この問題に取り組んでいく責任を負っていると思います。

「稚内聖公会と厚岸聖オーガスチン教会」

昨年の教区会でも厚岸聖オーガスチン教会と稚内聖公会のことについてお話をしました。厚岸聖オーガスチン教会はここ数年の信徒の逝去や転居、転籍などで、現在のところ、現在堅信受領者がいません。また、稚内聖公会も、同じように現在堅信受領者が高齢者お一人という状況です。この一年間、常置委員会ではこの二つの教会を今後どのようにしていくかを考えてきました。その結果、厚岸聖オーガスチン教会は、いずれ、釧路聖パウロ教会の伝道所に、また稚内聖公会は北海道教会の伝道所にして、これからのそれぞれの地で、特に、日本聖公会の最北の教会と最

東の教会の灯をともし続けたということになり、今後、関係する教会の現在堅信受領者総会の同意を求めることになっていきます。また、これらの教会が地域社会のために貢献できることなども考えています。どうぞこれら二教会のために皆様のご関心を持ってください、お祈りとご協力をいただきますようお願いいたします。

「日本聖公会再編成」

「日本聖公会再編成」についても、昨年の教区会でお話いたしました。この一年間も、主教会ではこの件を重要課題として協議してきました。日本聖公会には一一の教区があります。それぞれに歴史があり、伝統もあり、それぞれに固有な宣教課題などがあります。聖公会という教会は、世界中どこでも、主教を戴いて、そのもとで教区を作り、それが聖公会の宣教の単位とも言える信仰共同体を形成してきました。それらの教区が集まって管区を構成しています。日本聖公会は世界の聖公会の中では、教会や聖職・信徒の数から見ると最も小さな管区の一つです。そこに一一もの教区があつて、個々に違

う教会形成が行われていることについて、もつと身の丈に合った教区形成がされるべきではないかという意見も常に指摘されてきました。

しかし、ここ数年、どの教区も聖職者の数が減少し、中にはその数が一桁になっていく教区もあります。北海道教区も数年先にはそのようになります。この傾向は一一教区すべてに見られ、どの教区でも、今後、宣教・牧会に様々な困難や支障が予想されます。

主教会として、今後一〇年、一五年先を考えると、これまでのような一一教区体制では日本聖公会は継続しがたという危機感をもつて、すぐにでも教区の再編成に向けて動き出すべきだと考えており、来年六月に開催される日本聖公会の定期総会に、このことに関する議案を出すべく準備を進めています。ここでは詳細を申し上げることはできませんが、その最も大きな点としては、現在の一一教区が、それぞれの教区の宣教体制、人事態勢、経済体制などを考える上で、教区としての形態を維持しかねると判断したときは、「伝道教区」に移

行し、自分の教区の主教は持たず、管理主教のもと、またその教区が属する宣教協働区(これは現在の日本聖公会を三つの宣教協働区に分けて)の助言をいただきながら、教区の合併、再編に向かうという「伝道教区制」が挙げられます。

現在は、主教会が管区の教理・礼拝・組織調査委員や法規委員会にこの「伝道教区制」の案について諮問をし、来年の総会の議案を整えている段階です。しかし、まだまだ考えなくてはならないことが多くありますし、これは決して簡単に実現できることではないことも承知しています。日本聖公会の将来を考えると、早急に進めていくべき重大な課題であると思います。これからの北海道教会のあり方にも大きな影響を与えることになるこの「伝道教区制」について、今後、出来る限り、皆様にもいろいろな機会にご説明をし、理解を深めていかなくなくてはならないと思っています。

「おわりに」

来年六月の日本聖公会総会で、私は首座主教の任を終えます。計七期一四年にわたる

首座主教の職でした。北海道教会の皆様にはそのためにたくさんのご迷惑とご心配をおかけしてきました。しかし、そのような私を、これまで一四年間、辛抱強く、お祈りとご理解、ご協力、ご寛容をもって支えてきてくださったのは、北海道教会の皆様であったことを改めて思い、深く感謝いたします。来年六月に首座主教を終わりますと、あと二〇二二年三月までの間、私は北海道教区主教に専任いたします。どうぞ、これからも皆様のお祈りとお支えを賜りますようお願いいたします。

これからの一年間、北海道教区、聖職・信徒の皆様の上に主の豊かなお導きとみ守りがありますようにお祈りいたします。

二〇一九年十一月二二日

堅信式受領

おめでとう

今金インマヌエル教会

フローラ 佐久間愛子

コルベ 佐久間大義

(二一九年一〇日)

「ハラスメント防止の集い」を開催して

ヤロス 志賀直信

一月二二日教区会前の時間をいただき、標記集いを開催しました。当教区ではこのような集まりを持つのは約十年振りです。今回は東日本大震災支援活動中(二〇一一年八月)に起こった性的ハラスメント事件の検証報告を、各教区で実施するよう管区から要請があったためですが、ハラスメント防止委員会では講話を主軸とした学習会にしたいと企画しました。常置委員長の広谷和文司祭と相談しつつ、講師に旭川聖マルコ教会の大友愛美さんに白羽の矢を立てました。当日も授業があり、本当にお忙しいなか引き受けてくださり誠にありがとうございました。

じつは私は二年前大友さんから「高著『ともに暮らすためのレッスン』(全国コミュニティライフセンター、二〇一四)をいただき、一気に読みました。この本には長年障害者支援施設やNPO法人で精神にハンディキャップを有する人、ことに自閉症の人と接してこれ、自分と相手との関係性について、「迷っ

ては反省し、微調整をして前に進む」スタイルを実践してこられた彼女の揺れ動く心の内が素直に綴られています。彼女のお話は、ハラスメントのない教会を目ざす私たちに示唆に富んだヒントを提供してくださるものと確信したからです。

大友さんのお話は、ご自身の信仰の証を聞いているようでとても説得力のある、「目から鱗が落ちる」内容でした。ハラスメントはなぜ起こるのか、いじめる側の事情としてストレスのはけ口、権威主義的な考え、いじめをする人自身の人格の欠陥などを挙げ、一方いじめられる側の事情としてコミュニケーションが苦手でターゲットになつてしまいうやすいこと、誤解による思い込みを挙げられました。ハラスメントをする人もそれをうける人も、いずれも客観的に物事を捉えることができず、主観的な捉え方をしてしまう構図があり、往々にしてお互いの認識が一致することはないことも知っておく必要があることを指摘されま

した。ハラスメントをする人は自分がハラスメントをしているという自覚がないことが一番大きな問題です。個人的には男性の意識改革がとても大切であると思っています。最後に大友さんは、よりよい人間関係を構築するには「アサーティブ」な考え方が大切だと締めくくられました。思っていることを相手にはっきり伝えていいんだ、イヤなことはイヤと言っていいんだ、まわりの期待に応えなくてもいいんだ、間違ってもいいんだ、自分の気持ちをおおらかにしてもいいんだ等々、自分の気持ちや要求を素直に伝えるスキルを高めることが大事です。

大友さんの本の帯に向谷地生良先生(北海道医療大学教授・浦河べてるの家理事)が推薦の言葉を寄せられています。十数年前教区修養会で、当時ソーシャルワーカーとして無人化した浦河の古びた教会に住み込み、精神障害のある人達と共同生活されていた先生のお話を聞いて、とても感動したことを思い出しました。北星学園大学社会福祉学科の後輩に当たる彼女は先生をこころから敬愛されている

ことでしょう。三月に行われた管区研修会の報告をして下さった上平更執事、雨宮寿子さんにも感謝します。今回は週日の勤務時間帯のため参加者が少なく(約五〇名)残念に思います。また、機会を作って出席者参加型の研修会をできればと思っています。

常置委員会報告

臨時 一月二三日

《協議事項》

一、第七八(定期)教区会に於いて選出された常置委員は、大町信也司祭、広谷和文司祭、下澤昌司祭。信徒は、大友宣さん、尾関敏明さん、沖田京子さんが選出された。一、第一回(臨時)常置委員会に於いて、常置委員長に大町信也司祭、書記に沖田京子さんを選出した。

十 教区逝去教役者 記念聖餐式

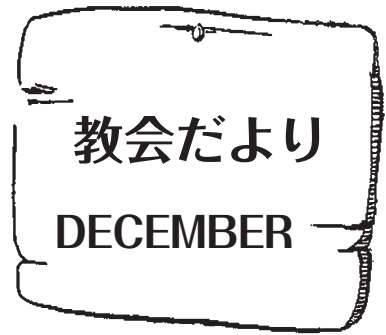
一月八日(水)

午前10時30分

於 主教座聖堂

次の方々を覚えて祈ります。

司祭	デイビッド・M・ラング	一九四六年一月一日
伝道師	千葉 今	一九四三年一月二日
伝道師	田澤 廉	一九四五年一月八日
伝道師	エディス・M・ブライアント	一九三四年一月一日
伝道師	遠藤 義三	一九三三年一月二日
伝道師	津田 喜九郎	一九四七年一月二三日
司祭	松島 寛太郎	一九六〇年一月二三日
司祭	八代 欽之允	一九四六年一月一七日
伝道師	エディス・C・ペイン	一九四七年一月一八日
伝道師	青山 操	一九〇八年一月一九日
司祭	小川 淳	一九〇七年一月二三日
司祭	松本 正雄	一九七一年一月二六日
司祭	野坂 保三	一九七五年一月二八日
司祭	佐々木 忠良	二〇〇五年一月二八日
司祭	遠藤 栄	一九四四年一月二九日
主教	フィリップ・K・ファイソン	一九二八年一月三〇日



▽旭川聖マルコ教会

一月第一主日は逝去者記念礼拝。五日からの聖書輪読会は旧約聖書士師記の輪読開始です。婦人会は「食べ物から見た聖書」をテキストに学び、また漬物づくりに精を出しました。一七日は広谷司祭北見出張により久末隼一さん担当で久しぶりのみ言葉の礼拝でした。山崎宅の緑が丘家庭集会は二一日をもって今年集まりを終了しました。来年も楽しい集いが持てる事でしょう。教区総会前日の「ハラスメント防止の学び」では大友愛美さんが講師を担当されました。いろいろな集まりの中で其々が賜物をお捧げしてマルコが動いています。保育園は幼児祝福式のお土

産に皆笑顔。林業組合からトド松を頂きクリスマス準備が始まりました。良いクリスマスを！

▽岩見沢聖十字教会

一月に入り、いつの間にか園舎からクリスマスマスの賛美歌が聞こえる。教会クリスマス案内を山本悦子姉が作成。一日、幼稚園は来年度の入園受付。少子化を迎えて市内各園は知恵の出どころ。

一七日、教会委員会。自由に意見が出し合われる。この日、来年度の選挙の公示。三〇日、聖十字広場の理事会。理事長である大友正幸司祭の奥様、美奈子姉の訃報を知る。一同祈りの時を持つ。

今月は、安藤三名子姉、美唄の西川ご夫妻が来られて主在る交わりを持つ。感謝。

▽釧路聖パウロ教会

▽厚岸聖オーガスチン教会

釧路では、教会をあとにする前、「暖房切った?」「水、落としました。」の声掛けが、聞こえる時節となりました。

二四日、今年度最後の礼拝を感謝のうちに終え、アドヴェントの月を迎えます。礼

拝後のオリーブ会ではクリスマスリース作り、クリスマス案内、トラクトも用意され、御降誕の気運が高まってきました。

三日、数か月ぶりに、厚岸聖オーガスチン教会に行き、全員でお掃除をし、朝の礼拝を行いました。晴天に恵まれ良い集まりでした。一〇名参加。

六日、家庭集会を山本真智子さん宅で行いました。各々の愛唱歌を歌い合い、二月に亡くなられた山本寿福さん、九年前のこの日に亡くなられた津田正さんに思いを寄せる時でもありました。一〇名参加。次回家庭集会希望の方も

あり、集まりが習慣づく気配。毎月『第一週は一階ホールでの礼拝』も定着し、使い方も工夫されスムーズになってきました。回を重ねるうちに

「私たちの礼拝堂は…」という思いが夢から、希望に形作られていく事でしょう。

▽小樽聖公会

昨シーズン、ていねいな除雪をしてくださった業者さんが今季は設備と車輛の都合が

つかないため依頼できないこととなり、急遽他の業者を探すことになりました。幸いにも教会近くの業者がすぐに見積にきてくださり、契約することができ、安心して冬を迎えられます。

一〇日(日)、永谷司祭は帯広聖公会での主日奉仕。教会ではみ言葉の礼拝をお捧げしましたが、この日は急遽、林悦朗さんが司式と福音書朗読等をしてくださいました。ご病気による声帯切除から約六年ぶりの礼拝奉仕となり一同感謝のうちに礼拝をともにいたしました。

▽帯広聖公会

陰暦で言う「霜月」。秋から冬への変わり目の季節となりました。三日「諸聖徒日」昨年に倣い、礼拝の中で一九〇一年(明治三四年)から二〇一九年(令和一年)一〇月末までの間に逝去された当教会に連なる信徒・教友四〇四名のお名前が信徒奉事者の山本雅之さんにより読み上げられ、魂の平安をお祈りしました。一〇日、教会委員

会の中心課題はクリスマス

諸行事について。幼稚園の祝会・礼拝を皮切りに、一八日帯広・十勝超教派キャロリング、二二日教会のクリスマス礼拝と祝会、二四日イブ礼拝、二五日降誕日礼拝と続きます。様々な奉仕を通じ信徒一人ひとりが主の御用の為に用いられますように。「十勝の豆」の袋詰め作業、地方発送は熟練の技で予定より早く終え、全国へと送られました。お買い求めくださった各教会の皆様は紙上を以て感謝しお礼申し上げます。

▽新冠聖フランシス教会

一月一〇日(聖霊降臨後第二主日)は収穫感謝礼拝をお献げしました。聖卓の前にはたくさん野菜や感謝の供え物が捧げられ「われら耕し種をまけど…」「実れる田の面は見渡すかぎり…」大きな声で季節の聖歌を歌いました。

礼拝後には小竹国昭兄の食前感謝の祈りに続き、恒例の奥田さん提供の搾りたて牛乳でカンパイ！持ち寄りのご馳走をいただきながら歓談の時を持ちました。帰りの教会玄

関前には、山田行子さんからのネギと大根―感謝でした。

▽札幌キリスト教会

紅葉真っ盛りの一月二日、藤原誠司さんと雨宮洋子さんの結婚式が執り行われました。一七日のキッズデーでは子どもたちが祝福を受け、婦人会手作りの GRATAN とピラフで愛餐を囲みました。二二日より二日間にわたる教区会、初日ハラスメント防止に関する研修を受けました。二二日、菅野富枝さんご逝去。三〇日には、大友美奈子さんが逝去され、大きな悲しみが教会を包みました。三〇日、パイプオルガン修復完了感謝礼拝、当教会のオルガニスト達が奏楽を分担し、蘇った響きで賛美を捧げました。

▽札幌聖ミカエル教会

一月三日、未就学のごどもを対象に幼児祝福式を行う。赤ちゃんの存在は教会にとって真の宝と感じる。八日にはロザリオの祈り、一日は、主の祈りについての小さな黙想会。沈黙もまた豊かな祈り。多様な祈りのかたちを持つ教会でありたいと願って

います。二四日、幼稚園の認定ごども園移行を見据えて、これからの教会との関係、期待する幼稚園の姿について、信徒、園長、職員が活発な意見交換を行う。そして幼稚園はクリスマス準備に。主イエスご降誕の意味、教会の信仰を吸収し、キリスト教保育を深めようとする先生たちの姿がたくましく見えています。

▽新札幌聖ニコラス教会

降臨節を迎える前の最後のひと月、今月の礼拝出席者は主教巡回日を除き平均大人一五名、子どもゼロ。聖餐のない主日のみ言葉の礼拝でも人数は変わらず。一〇日は横山司祭による聖餐式。一七日は主教巡回日でニコラスの

日・収穫感謝・子ども祝福・

雨宮司祭逝去記念と盛りだくさんの礼拝で大人三〇、子ども三名。持ち寄りのご馳走で賑やかな食事会となった。これまで教会の諸活動を中心的に支えてきたマリア会は高齢化や会員減少のなか、新しい形の活動を模索中。上平執事は札幌キリスト教

会勤務に加え、毎月の英語礼拝の奉仕。感謝。

▽稚内聖公会

今年も水を落とさなければならぬ季節がやって来た。流しやトイレの水を本原さんが落としてくれる。旭川から「稚内クリスマス・キャラバン」を迎えて、二四日午後六時三〇分よりクリスマス・イヴ礼拝、降誕日聖餐式、クリスマスお祝い会を行う。イヴに「イヴ礼拝」を捧げるのは本当に久しぶりの事！堅信受領者一名となり、近く教区の伝道所として再出発する準備が進められているが、どのような形であっても、この地に福音の灯をともし続ける存在でありたいと願っている。

▽函館聖ヨハネ教会

一月九日の函館クリスマス会(芸術ホール)に一〇名が参加、演奏や催しを楽しみました。一〇日は、収穫感謝・子ども祝福式に寄せて植松主教様ご巡錫。大盛り上がりの野菜オーケションを通じて、献金に換えました。藤井司祭は札幌・今金など廻りつつ、函館少年刑務所の教誨師

奉仕活動にも赴く多忙な日々を送っています。道南・函館でも降雪あり、一月最後の聖書輪読会は吹雪のため中止になってしまいました！三〇日はアドヴェント準備・掃除に集い、一月一日のミニバザーに向けて製作も頑張っています。

▽平取聖公会

毎年一〇月最後の週は収穫感謝礼拝をします。祭壇は信徒からの捧げものでいっぱいでしたが、今年の平取は天候不順でしたので、作物の出来は今一つというところでした。その中で主要産物のびらとりトマトの収穫量は昨年を上回りましたが、市場価格が低迷して売り上げは少なくなりました。ハウス内で片付け作業をしている農家の方々も何となく力が無いように見えます。

▽有珠聖公会

保育園は現在定員を超えています。保育士を募集しています。良い方をご紹介します。毎週土曜日のバチラー夫妻記念室の開館事業も無事終了。今年も国内外からたくさ

んの訪問者を迎えることができました。来年の四月まで冬季休館です。半年間の環境整備、来館者案内を一手に担われた片平芳裕さんのご奉仕に感謝。一月二四日、聖餐式の後、一月二二日(土)の午後二時を予定しているS・クラリネット・クワイヤー札幌の皆さんをお招きするクリスマスコンサート準備について入念に話し合い、各所に配布するポスター・チラシを各自大量に持ち帰りました。

▽今金インマヌエル教会

一月一〇日、主教巡回日に収穫感謝、佐久間愛子さんと大義君の堅信式と礼拝を守ることが出来ました。祝会では今金インマヌエル教会恒例の各家庭より持ち寄り(五目ご飯、チャプチェ、鹿肉のフライ、豚汁、サラダ、大福餅、人参ケーキ)の多国籍料理で大盛り上がりでした。一七日、礼拝後教会の大掃除で窓拭き、境内地の倒木、枝を集め、焼き、やっと終わりが見えて来ました。そして、どんぐりやこれから植える木

の苗を作る畑を作り、ツリーの飾り付けをして準備万端。

▽紋別聖マリヤ教会

一一月に入り雪が降り寒い毎日が続いています。二回目の入学願書受付が始まり九名の入園受け付けました。二二日二三日、教区会が札幌で行われ阿部牧師、エリックソン久美子姉が出席されました。

二四日(日)パウロ吉山一徳

の逝去一周年記念祈祷が行われました。親族と教会員の人達が出席して明るく、誰にも親しく接してくれた一徳兄を偲びました。寒さに向かいます、身体に気をつけて下さい。主の平安がありますように。

▽室蘭聖マタイ教会

暦の上での立冬の日、初雪が無い寒さが近づいてきました。

一〇日吉野司祭来会、説教の中で私達は生活の中でどのくらい神様を意識しているか、又神様によって生かされている事を意識しているかと話され自分の生活を顧みる機会を頂きました。一二日、二三日教区会に藤井兄参加す。二四日午後吉野司祭来会

時、東京在住の斉藤篤様同窓会の為来道し、幼少期に過ごされた当教会を懐かしみ礼拝に参加。共に聖餐に与り、ささやかなお茶会にて昔の話又、近況報告などあり教会の周辺館内をカメラにおさめ帰られる。無事帰宅されます事を祈る。

▽苫小牧聖ルカ教会

冬の寒さが一気にやって来た一一月。三日の逝去者記念礼拝には主教様をお迎えし、共に懐かしい人に想いを馳せました。一〇日はマーメレード作り。トーストと食べるのが楽しみです。子ども聖歌隊「スマイル」のチャリティコンサートが一六日に行われました。会場いっぱい響く天使の歌声は聴いている人達を幸せな気持ちにした事でしょう。一七日の子ども祝福礼拝にも多くの子ども達が参加。小さな手を合わせる姿に「子ども達を私の所に来させなさい。妨げてはならない。」というイエス様の言葉を思い出しました。

▽網走聖ペテロ教会

いよいよ冬支度が始まり、朝はストーブのそばでじっと暖かくなるのを待つています。思い通りにならない司祭の病ですが沢山の方々の祈りと助けに教会も守られている事に感謝します。一〇日は留萌より木村司祭が来て下さいました。その日は収穫感謝礼拝も含め共に礼拝を捧げ良き交わりが持てました。二八日、ペテロの会六名が集い主の御降誕に向けツリーやリースや冬前の外周り整備をしました。一人一人の生活の中に主がおられ今日も支え導かれている事に感謝したいです。

▽北見聖ヤコブ教会

雪はまだですが冷え込むようになり、雑草に霜が降り真つ白になっている北見です。

窓の雪囲いをし、メンテナンスを終えた除雪機が届き、

クリスマスが近づいて静かにクリスマスが近づいて来ています。

一一月一七日、旭川の広谷司祭が奥様と共に来てくださり、収穫感謝礼拝、全逝去者記念礼拝の司式・説教をしてくださいました。一五名の礼

拝でした。遠い所より、天候の優れない中の貴いご奉仕ありがとうございました。飯野司祭も少しづつ力をつけています。

▽聖マーガレット教会

一一月五日(火)松本襄二さんの訃報を東京より受ける。松本兄、札幌の民放のアウンサー時代、当教会にて長年にわたり礼拝奏楽を担当。いまでも続く当教会のチャントの選曲・歌い方を指導してくださいました。松本兄の魂への主の平安を祈る。

一一月一七日(日)聖霊降臨後第二三主日、司式・説教

者に横山明光司祭を迎えて聖餐式。そして、恒例の北星学園女子高校聖歌隊を迎えて礼拝をささげる。更に、今回は同校ハンドベルも加わり豊かな礼拝となる。

▽深川聖三一教会

一一月三日、マリア岡本妙子、ダビデ岡本亮二両氏の逝去記念式、一七名のもと記念会。千葉東京からご家族参加す。委員会がクリスマス移動の相談す。一三日、保育園児の幼児祝福式、成長を祈

る。一四日、保育園職員会議、主任より感染病対応の指導あり。一七日、婦人会、ドイツ首相、哲学者アンゲラ・メルケル女史の「わたしの信仰」を日本聖公会婦人会補助で一〇冊購入できて学習する。核兵器廃絶のアンゲラ(天使)さんに一同励まされる。保育園玄関前駐車場が寺岡工務店の大幅な補助でアスファルト布設される、感謝。

▽留萌キリスト教会

一一月一〇日、木村司祭は礼拝奉仕のため、網走聖ペテロ教会を訪れました。留萌の礼拝は一回お休み。大きな手術を受けられた、飯野司祭のお体が回復しますように。

一七日、藤井さん夫婦と、長男の信人さん、一麻ちゃん(五歳)も名寄から来てくれました。妙子さんは今年最後のカレーをお鍋に携えて来て下さいました。感謝。

二二・二三日の教区会に、藤井浜さんが代議員として出席。翌二四日の礼拝にも名寄から来て下さり、本当にお疲れさまでした。